後、話はしていきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** よろしく願いいたします。

あと、専攻科について産業参事にお伺いしたいんですけど、先ほど黒沢尻工業高等学校だと思うんですけど、ここは3年間の後の2年間のコースという考え方でよろしいのか、それとも、高校3年間の間に専攻科があるという考え方でよろしいんですか、それはどちらでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 谷澤秀一産業参事。

○**谷澤秀一産業参事** ここは2年間の専攻科で、10年前ほどにできたというふうに伺っております。

(「高校終わってから2年」の声あり)

○**谷澤秀一産業参事** 終わってから2年間です。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 実際行われている学校があるのであれば、当然非常に有利な形で進めるのかな、ゼロから進めるんではかなり大変だなと思ってましたんで、あれば参考としていけるので、非常にいいのかなと思っております。

あと、電柱関連に関しては、基本的に、やはり車目線と言われても、車乗ってる人、見ないですよ。逆に気づいていないんですよ。走行車線の反対側にあった場合、やはり見えない。やっぱり前方注意してますから、側面にある広告をずっと見てるかと思ったら、見てないと思うんです。見てたら、もっと早く誰かおっしゃるんじゃないかと思ってるんですよ、あんだけ薄くなってれば。多分見てないから、逆にわからないんで今まで放置されてんじゃないかなと。

ですから、本当にこの車用としてその看板が、十字路とかとめるところであるのであれば、とまりますからあたりを見渡しますけど、やっぱり走行してる時に脇を見るというのはなかなかないことだと思いますので、その辺は検討課題として持っていかなきゃなんないかと思うん

ですが、その辺はいかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 谷澤秀一産業参事。

○**谷澤秀一産業参事** 先ほど申し上げましたが、やはりもう一度再考すべきというふうに考えますので、内部で検討させていただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 今60万といっても少ない金額ではないですから、やはりそこを有効な形で使っていただいて、観光という部分に関しては有効な手だてをぜひつくっていただければと思います。

私の質問は以上で終わります。ありがとうございました。(拍手)

鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位4番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番、鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** こんにちは。創生会の鈴木富美子です。よろしく願いいたします。

道の駅川のみなと長井がオープンして約2カ月が過ぎました。オープンのときは桜の花もオープンを祝うかのように満開となり、長井においでいただいた皆様に満足していただいたのではないのでしょうか。

桜が終わり、今度はつつじ公園の白つつじも見事な花を咲かせ、多くの観光客においでいただきました。満開の白つつじの中での黒獅子まつりも天候に恵まれ、大盛況に終わったと思います。来年も長井に来てみよう、来年は友達も誘って来ようと言ってくださるお客様がふえたことに期待したいと思います。

それでは、幸せを感じるまちづくりを目指し、通告書に従いまして一般質問に入らせていただ

きます。明確なご答弁、よろしく願いいたします。

第1項目から質問させていただきます。

初めに、生涯スポーツ課長にお伺いいたします。先月、5月21日、全国白つつじマラソン大会が例年とは違い真夏のような暑さの中で行われました。熱中症などいろいろな心配があったと思いますが、けがや事故もなく、大会が問題なく成功したとお聞きしております。

今回で第39回となる大会ですが、ことしの参加人数を市内、市外、県外に分けて教えてください。

また、ことしの大会で例年と違い特に工夫されたことがあったのかも教えてください。

来年は第40回大会となるわけですが、多くの皆さんに参加していただけるような工夫を今から考える必要があるのではないのでしょうか。検討していただきたいと思います。

例えば、10キロコースは二重坂ではなく、小出船着き場から宮船着き場まで走るイメージでまちなかを走っていただき、市民の皆さんの応援をいただきながら、長井市のよさを知っていただけるようなコース設定にすることはできないのでしょうか。

5キロコースについては、大分前になりますが、私も参加させていただいたことがあり、金井神イチゴのサービスや最上川の堤防から見える西山の新緑と残雪のコントラストに、地元にいながらも感動しながら走ったことを覚えております。

コース内での見どころなど、走り終わった後、多くの方々のお話を伺い、ご意見をPRすることによりリピーターをふやすべきと考えますが、生涯スポーツ課長はどのようにお考えでしょうか。

また、走り終わった後のイベントは検討されているのでしょうか。例えば、伝統あるかど焼き祭りなどのイベントを同時に開催し、希望者に

参加してもらい、丸一日マラソンを満喫してもらおうことなどはできないのでしょうか。ただ、今の日程ですと前日に黒獅子まつりがあり、次の日の早朝、マラソンの準備となるとなかなか大変なこともあると思いますので、日程などの検討もしていかなければならないのではないかと思われますが、市長のマラソンに対しての今後の方向性をお聞かせください。

また、昨年の10月16日の第30回長井マラソン大会において、スタート地点における事故があったわけですが、ことし参加される皆さんはいろんな意味で大会に期待されていると思います。

ネットで見ると、国内マラソン大会は九州から北海道まで一年中、土日、祝日と必ず開催されております。どこのマラソン大会においても記録に挑戦するランナー、観光目的や趣味で挑戦されているランナーなどさまざまだと思います。千葉県の富里市のスイカマラソンは、市の特性を生かし、スイカー色です。季節にもよると思いますが、長井マラソンの給水所でのバナナやパンはどこでも食べられます。そこに長井らしさの工夫などがあってもいいと思いますが、教育長はどのようにお考えですか。

また、観光交流センター川のみなと長井に少しでも多くの皆さんにおいでいただくために、マラソン大会参加者の配付資料の中に、特に市外、県外の方には交流センターのお買い物券や割引券などをパンフレットと一緒に配付してはどうでしょうか。

マラソンに限らず、ちょうど同日、白つつじマラソン大会の日ですが、長井市パークゴルフ場公認コース認定記念大会が行われました。その際、やはり市外、県外からも多くの参加者が来られました。大会の商品は長井の地場産品で大変よかったと思いましたが、ここにも一工夫して、参加賞の中に道の駅の割引券などを入れるなどしたらどうでしょうか。

スポーツを通して長井のよさを知っていただ

き、一人でも多くの人に道の駅からまちなかに来ていただくためにも大切なことだと思いますが、市長の考えをお伺いいたします。

続きまして、第2項目に入らせていただきます。今から8年前になりますが、ある議員の一般質問の中で、障害のある人もない人も安心して暮らせるまちを目指し、バリアフリーマップを作成してはどうかとの質問があり、市当局は、本年度中に検討し、できれば来年度には作成できる方向で考えていますとの答弁でした。今現在、このマップはあるのでしょうか、福祉あんしん課長にお伺いいたします。

昨年の秋、第5回となる大町地区を中心に文化回廊のイベントがあったことは皆さんもご存じだと思います。障害者の皆さんの作品には多くの感動があり、商店街の古きよき長井のまちが再発見できたと思います。

しかしながら、まちなかはまだまだ段差等もあり、障害者に優しいまちとは言えないと思います。せめてマップがあれば、ここは大丈夫、ここはお店の人に手伝ってもらえるなど、きめ細やかなマップであり、商店においても、どなたでもお入りくださいと表示していくような市民の意識も必要と考えられますが、バリアフリーマップについて市長はどのようにお考えでしょうか。

また、皆さんもお気づきとは思いますが、県道長井停車場線の長井駅前の道路は駅からの歩道、急な斜面など、歩行者、特に障害者、車椅子を利用している方々がとても不便を感じております。長井駅前は長井市の玄関でもあると思いますので、今後どのように整備していくのか、市長のお考えをお聞かせください。

以上で質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木富美子議員から大きく2点ほどご質問をいただきました。

まず、最初の1点目のスポーツを通して交流人口をふやすためにはということで、一つの例といたしまして、マラソン大会などスポーツを通して道の駅やまちなかへの交流人口をふやすことができるのではないかとのご提言をいただきました。

先週の金曜日、6月9日ですが、私ども3年後の東京オリンピック・パラリンピックでホストタウンとして東アフリカのタンザニア連邦共和国を登録いただいたということから、特にお願いしまして内閣官房の東京オリンピック・パラリンピック推進本部の事務局、羽生参事官にお越しいただきまして、何と2時間も意見交換も含めてお話をお伺いしたり、いろいろ意見交換をしていただいたところです。残念ながら議員の方はどなたもいらっしゃらなくて、非常に残念だったんですけども、これはまさに東京オリンピック・パラリンピックっていうのは、議員のおっしゃるようなスポーツツーリズムの最たるものでございます。2点目の障害者に優しいバリアフリーマップということもあるんですが、東京オリンピック・パラリンピックのもう一つの大きなテーマというのは、文化プログラム、とりわけ障害者、パラリンピックがございまして、このパラリンピックを通じて、いわゆる心のバリアフリーを取り除くようなユニバーサルデザインのまちづくりを、レガシー、遺産として残すということなどを詳しく丁寧に画像なども通して話していただきまして、非常に残念でした。

それで、まず最初の2つのご質問でございませうけれども、白つつじマラソン競技終了後の対応についてということで白つつじマラソンの話がございました。今回、39回目で初めて1,000名を超えたんですね。これはフットパスのコースっていいですか、ウォーキングコースがございまして、実際走られた方は700から800人ぐらいでございましたけれども、そのうちの全体

では75%ぐらいが市外の方なんです。

今、マラソンについては県内でも各市町村がほとんどと言っていいほど一生懸命行うようになりました。一番大きいところだと東根市のさくらんぼマラソン大会なんかは、もう1万4,000人ですよ。私どもも、これは秋は秋で長井マラソンという唯一のフルマラソンをしておりますので、これを一つにできないかということなどもいろいろ検討していますが、白つつじマラソンは白つつじマラソンで大変伝統もあってよさがあります。一方で、長井マラソンは、これはもう競技の、何というんでしょうか、本当にフルマラソンで、マラソンが好きな方が集まる競技ですので、そういった意味ではなかなか性格の違うものを一本化するのは難しいと。白つつじマラソンもまちなかを走るコースにするにはなかなか難しいのかなと、もう少し検討していかなくちゃいけないと思いますが、やっぱり先ほど申し上げましたように、7割以上の方が市外の方ですから、基本的に大会が終わった後は余り飲んだりとかはなかなかできないんじゃないかと。ただし、何かイベント、お祭りをすれば喜んで参加いただけるんじゃないかなというのも議員提案のとおりだと思います。

したがって、午前中の質問でも宇津木議員、浅野議員の質問でもお答えをいたしましたけれども、タスの東側の河川敷から観光交流センターまでの、まずは国で取得いただいた2.7ヘクタールぐらいの部分を国からお借りして、そこを基本的には国のかわまちづくりで底地をある程度整備のご協力をお願いしながら、上物は私どもでしなくちゃいけないんですけども、そういった整備をすればいろんなイベントができるんじゃないかと。

議員おっしゃるように、なかなか場所がないんですよ。つつじ公園の中では狭いですし、あと、駐車場は駐車場で使ってますし、そんなことから、そういった河川敷の広場ができます

ときまざまなことができるし、お祭りなどもできるんじゃないかなというふうに思います。

なお、まちなかにどういうふうに誘導するかということでの工夫を、ぜひ進めていきたいと

思います。もう1点のこの項では、交流センターの買い物券や割引券などをパンフレットと一緒に参加する方に配付してはどうかということでございます。

これは、やまがた長井観光局でも、長井マラソンなどでも去年から少しずつですが旅行商品として販売をしたりしています。白つつじマラソンについても販売などをしておりますが、なお一層魅力的なコースなどをぜひ、最低1泊でいらっしゃる方は、ほとんど県外の方はいっぱいいらっしゃるわけですから、事前に案内として、例えば参加者の名簿などから、これはやまがた長井観光局では難しいと思いますから、例えば白つつじマラソンの実行委員会とか、そういったところの名称で案内などを出すということもできると思いますし、あと、来られたときに買い物券とか割引券を入れるでもいいんですが、今度お金がかかると。なかなか割引というのも、今、特にサービス業は景気がよくなったっていても消費が伸びないもんですから、きのうあたりの発表を見てみますと、一時金なども製造業、建設、それ以外のサービス業でも大部分がアップしてるんですね。ところが、小売業だけは横ばいなんですね。ということは、売り上げが伸びてないと。そういった中で割引してくださいというのもなかなかやっぱり大変だと思いますので、これを市のほうで予算化してやんなくちゃいけないということから、やっぱり事前に案内もしながら、こういったところをどうしたらいいか検討してまいりたいと思います。

2点目の障害者に優しいバリアフリーマップについてということで、バリアフリーマップを

活用して市民の心のバリアフリーの意識向上のための方策を問うということで、大変ご提言もいただきました。

長井のまちなかに限らず、長井市内は道路もほとんど、特に中央地区は昭和40年代、50年代で整備したものが大部分でございます。その当時は、やっぱり建設課などから聞きますと、歩道なども車道より1段高くして、それで安全性を確保したと。ところが現在はそうじゃなくて、車道と歩道はフラットにしてまして、そうしますと長井のまちなかでフラットのところ、ほとんどないんですね。郊外に行きましたの歩道、自歩道などはほとんどフラットです。例えば南中にしても北中にしても、歩道についてはフラットなんですけども、そういった意味では、やっぱりマップをつくる意味がないみたいな格好になってるんですね。それで、むしろバリアフリーっていいですか、なってるところを探すのが難しいみたいなもので、施設もそうです、タスなどは比較的、30年前ですから、昭和の終わりぐらいに建てたんで、障害者用の車椅子とか、そういった障害者に対しての配慮というのはかなりあるんですけども、それでも段差は結構あります。よく、障害者の方だけじゃなくて、高齢者の方が歩いてつまずいてけがするっていうのは本当、後を絶ちませんので、そういった意味では、これは本当に深刻な問題だと思います。

考え方といたしましては、私どもで東京オリンピック・パラリンピックに対して積極的に取り組もうと、その際に、ぜひ私個人として、まだ教育委員会とかどこも相談してないんですが、やっていきたいなと思っているのは、まちなか美術館で市内のいろんな団体の方が、有志の方が障害者の作品などを市民に見ていただくような、そういう機会を設けていただいている、これ大変素晴らしいと。と同時に、パラリンピックの、この間、羽生参事官も映像で見せてくれま

したけども、例えば前回のリオのパラリンピック出た人に日本選手に来ていただいて、講話を聞くと。そのDVDはバスケットの選手だったんですけども、子供たちも一緒にバスケットをしてもらおうと。ただし、車椅子に乗ってと、健全者がですよ。そういったことを教えながら、一緒に体験しながら、いかにいろんな苦勞、さまざまな障害を乗り越えてパラリンピックですばらしい成績を上げたかということに対して、子供たちは本当に感心しながら、障害っていうのは、これは誰でも、まあ、ノーマライゼーションですからね、そういう人もいますし健全者もいますし、その中で一緒に暮らしていくということの大切さを教えると。

あるいは、パラリンピックなどもぜひ見せたいと、子供たちに。まあ、我々大人なんかも、むしろスポーツのオリンピックなどはテレビとかなんかでわかるんですね。しかし、パラリンピックっていうのは期間も長いですし、チケットも手に入りやすいので、そういったところでやっぱり子供たち、我々も、市民などにもぜひ見ていただいて、まずはそういったところから心のバリアフリーを解除するような努力をしたいと思ってます。

議員からのご質問にお答えする部分では、今お話ししましたように、議員ご指摘のバリアフリーは、まず心のバリアフリーからやって、あと、ユニバーサルデザインというのが基本ですから、外国のタンザニアの方々もお越しいただきますが、あわせて、私は以前からいろんなところで個人的な意見を言ってますが、私どもの姉妹都市であるドイツのバート・ゼッキンゲンの、さらにヨーロッパの5都市の姉妹都市があるんですね。ですから、ドイツとフランス、イタリア、スイス、オーストリアの5都市の皆さんに、東京オリンピック・パラリンピックのときに長井で総会をしてもらおうと、ぜひその行政の方も市民の方も長井に来ていただきながら、

ここを拠点にして東京オリンピック・パラリンピックを拝見していただいたり、日本という関心度がすごく高まると、今どんどん高まっていますから、その中で私どもも、いかに私たちのまちがユニバーサルデザインからかけ離れているかということを確認しつつ、これをきっかけに少しずつ直していけるように、そのいいチャンスが、例えば本町の街路事業は、あれは全部バリアフリーになるわけで、それが終わった後、駅前通りもぜひやりたいと思っています。それには県のほうの事業で国の補助でやっていただきますが、我々がやってください、やってくださいだけでは進みません。やっぱり私どもも行政もさまざまなにぎわいをつくるための施設、にぎわいづくりの施設もつくったり、あと、民間もそういうふうなことで、いろんな施設をつくるということで、じゃあ、県のほうとしては、この道路を街路事業にすることによってお金が生きるんだと、税金が生きるんだということで予算をつけてくださるもんだと思います。

今、残念ながら本町のほうはいろいろ不協和音などもありまして、なかなか当初計画した店をやめるとか、そういう話も出ておりまして、そういうことが続きますと、県のほうの補助もなかなか予算もついてこないというふうに思っていますので、そういったことを市民一体となって進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

スポーツを通じて、スポーツの振興と、それから、この東京オリンピック・パラリンピックの機会に食や文化、そしてユニバーサルデザイン、共生社会のあり方を考えるいい機会、そして国際交流によって、子供たちにとって、我々にとって記念に残るような、そんな3年後にしたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 鈴木富美子議員から、私のほ

うに2点ほどご質問いただきました。

まず、1点目でございますけれども、全国白つつじマラソン大会、この10キロコースをまちなかを走るコースに変更できないかということにつきましてお答えをさせていただきたいというふうに思ひます。

先ほど、若干市長からもございましたけれども、まちなかを走る、いわゆるシティマラソンというのが、ここ最近では主流になってきているように感じております。ただ、白つつじマラソンにつきましては、最上川の雄大な流れと白つつじの景観を楽しみながら、緑豊かな自然の中を爽やかに走るということがコンセプトというふうに聞いてございます。このコンセプトのもと、初回から開催し、39回を迎えたということでございます。

最長でも10キロメートルという大会でございますので、市街地と郊外の両方をコースに設定するというのは若干厳しいところがございます。また、場合によっては、基本のコンセプトを変更するということにもなりますので、コースの設定も含めまして本大会の実行委員会組織にご協賛をいただくようお願いしてまいりたいというふうに思ひます。

それから、これも先ほど市長からございましたけれども、将来の構想ということにつきましては、秋に行われている長井マラソンと統合することで相乗効果が期待できないかということにつきましても、今後十分検討してまいりたいというふうに思ひているところでございます。

それから、40回大会に向けましては、本市のスポーツ、それから健康、体力づくりをさらに推進していくという観点から、長井市の未来を担う小・中学生にもっと参加していただきたいというふうに思ひてございますので、料金の設定等、参加しやすいようにできないかにつきましても考えているところでございます。

それから、2つ目でございますけれども、長

井マラソンについて、長井マラソン大会、もっと長井らしさ、特徴を出していくべきではないかというご質問、ご提言でございますけれども、議員ご指摘のとおり、各方面からいらっしゃる参加者、それから応援の方は、各地の特色ある風土、それから観光地、お土産品等を非常に楽しみにしています。本大会につきましても、県外からの参加者に対しあやめ苗の贈呈、それから遠来賞にも長井らしい商品を準備してございますけれども、今後につきましてもさまざま工夫を重ねながら、皆さんに喜んでいただけるように努めてまいりたいというふうに思います。

給水所に置く飲食物につきましては、議員ご指摘のとおり、以前、金井神イチゴを提供していたという時期もございましたけれども、生産を終了してしまったということで、できなくなってしまったという経緯がございます。長井市の農産物のPRということも非常に重要でございますので、伊佐沢地区を初め市内で生産しているイチゴ、それからミニトマトなど、5月が出荷時期となる農産物を中心としながら検討してまいりたいというふうに思います。

また、先ほどコース設定に触れましたけれども、この長井マラソン大会に参加される皆様方は、長井の豊かな自然を求めていらっしゃるということのようです。長井の水を初め、長井市のよい点を前面に押し出して、長井らしさを表現してまいりたいというふうに考えているところでございます。

○渋谷佐輔議長 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○沼澤孝典生涯スポーツ課長 私のほうからは、ことしの白つつじマラソンについて、まず初めに、市内、市外、県外の参加人数についてお答えをしたいと思います。

ことしの参加者数につきましては、全体で1,002名でありました。うちウオーキングの参加が120名いらっしゃいます。

地域ごとの内訳でございますけれども、市外

からの参加者については644名、そのうち県内の参加については179名でございます。県外の内訳でございますが、隣県からの参加の方が多く、宮城、福島、新潟の方で合計150名いらっしゃいます。なお、種目ごとの市外参加者数でございますけれども、10キロメートルにつきましては参加者317人のうち286人で約90%、5キロメートルは211人のうち141人で約67%、2キロにつきましては237人のうち132人で約55%でございます。なお、ウオーキングについてはほとんどが市内からの参加者でございます。

あともう1点、今大会で工夫した点はというふうなことでございますが、やはり安全面でございます。

1点目は、スタート時の安全でございます。昨年度までは5キロと10キロを一斉にスタートしておりますけれども、選手同士の接触、あるいは転倒という危険がありますので、ことしにつきましてはスタート時間を種目ごとに設定いたしまして、混雑の低減を図ったところでございます。

2点目は、最上川の右岸の市道を走る際の安全でございます。金井神、日の出町の皆様方のご協力をいただきまして、金井神線につきまして車両進入禁止とさせていただきます。ランナーの安全を確保しながら、快適に楽しんでいただけるように努めたところでございます。

また、昨年度からでございますけれども、熱中症の予防にはスタート前の給水、これが大事だというふうなことでございますので、給水所を新設したところでございます。

最後にですけれども、PRについてでございます。参加される選手の皆さんは、それぞれの大会の雰囲気、あるいは評判などをさまざま情報を得ながら選ばれております。本大会におきましても、参加者のご意見につきましては、よい評価をいただいたところについてはPRに、あるいは改善すべきところにつきましては改良

の方針など、それぞれ市のホームページやランネット、情報紙等々でございますけれども、それなどを通じて情報発信してまいりたいというふうに思います。

なお、ことしの大会におきましては、エフェムい〜じゃんさんのご協力をいただきまして、上位入賞者の皆さんへのインタビューコーナー、これを設置したところでございます。初回でありましたので、試行錯誤しながらというふうになってしまいましたけれども、次年度に向けまして改善を図りながら設置を検討してまいりたいというふうに思います。

なお、インタビュー内容につきましては、市のホームページやおらんだチャンネル等々で活用してまいりたいというふうに思います。

以上です。よろしくお願いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 高橋正典福祉あんしん課長。

○**高橋正典福祉あんしん課長** 私のほうからは、以前の答弁で作成することだったバリアフリーマップというふうなことについてお答えをいたします。

議員が8年前の答弁とおっしゃるのは、平成21年9月議会での答弁と推察いたしますが、その後、第1期長井市地域福祉計画に基づき、平成22年3月の10日に市内の店舗及び事業所293カ所にアンケート用紙を送付し、137カ所から回答を得、それをもとに長井市バリアフリー施設ガイドを作成いたしました。このガイドは、スロープ、ドア、トイレなど細かい状況が一目でわかるような表になっております。

その後、長井市社会福祉協議会が平成28年度から、長井市地域福祉活動計画に基づき長井市バリアフリー施設ガイドなどの情報などを参考にしながら、プロジェクトチームを組んでまちなかを中心にしたマップを作成しております。

その後、そのマップを新たな情報があれば更新をし、さまざまな障害をお持ちの方にもご利用いただけるようにしていきたいというふうな

ことでもございました。市としても、常に最新の情報の提供に努めてまいりたいというふうに思っております。

現在、結果として、完成しているものは長井市バリアフリー施設ガイドということになるわけですが、間もなくまちなかマップも完成する予定でございます。

また、マップ等の情報につきましては、市内にとどまらず、広く知らしめる必要がございますので、多くの人が集まる場所を設置をしたり、ホームページへの掲載をしたり、おらんだラジオでのお知らせなどをして周知に努めてまいりたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 皆様の答弁、大変ありがとうございました。市長からは本当に力強い答弁がありまして、障害者に対する思いをお話ししていただいております。ありがとうございます。

生涯スポーツ課長にお伺いいたしますが、ネットのほうで調べたときにマラソン大会も載ってましたけども、この中にインタビューをするって先ほどおっしゃってましたことが載ってました。また、その他に白つつじまつりで楽しんでいただきましたよって書いてますけども、これにつきましては、何かイベントをなされたんでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○**沼澤孝典生涯スポーツ課長** お答えいたします。

マラソン大会当日につきましては、隣の会場で井上千春さんのコンサートが開かれておりました。大会に参加される方々は、走り終わってからの歌声などについても感想をお寄せいただいております。

また、ランニング関係のネット上でのご意見を若干ご紹介させていただきますと、やはり景色についてはお褒めをいただいております。満開の白つつじと新緑のコントラストがすばらしいというふうなご意見、あるいは応援ですね、

慈光園さんで随分応援に出ていらっしやっておりますので、その応援がとてもうれしかったというようなお声もいただいております。

また、課題といたしましては、先ほど交流というふうなところでも出たわけですが、市内のラーメン屋さんのマップがあればよかったとか、あるいは、これは課題ではございますけれども、手荷物の預かり所がぜひ欲しいというようなお声もいただいたところです。いろいろ検討を重ねながら、来年に向けて改善を図っていきたいというふうに考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** コースにつきましては、私は道の駅に少しでも多くの方が行っていただきたいと思ひまして、まちなかコースとも提案したんですが、やはり課長がおっしゃるように、最上川を本当に走ってみるとわかりますけど、長井のいいところが全部見れるんじゃないかなと思っておりますので、コース、まちなかもちょっとだけ入れていただきながら、ちょっと考えていただきたいと思ひます。

マラソンにつきましては、皆様で検討していただくという、先ほどお話がありましたので、ぜひよろしくお願ひいたします。

福祉あんしん課長にお伺ひいたします。

バリアフリーマップというか、ガイドはつくっていらっしやるということでお聞きいたしましたが、今現在も更新しながら置いていらっしやる、そういったものを今作成中というふうにお聞きしたんですが、その前の部分のままで、22年度つくったままで更新なさらずに今現在配置してるのか、それとも28年度から作成してるのがあって、主要なところに置いてくれるのか、その辺ちょっと教えていただひてよろしいでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 高橋正典福祉あんしん課長。

○**高橋正典福祉あんしん課長** 22年当時つくったものにつきましては、更新はいたしておりませ

ん。先ほども申し上げましたが、長井市社会福祉協議会のほうで今バリアフリーマップを作成しております。それをつくる段階で私どもでつくりましたこのガイドを参考にしながら、まちなかのマップをつくっているわけですが、そちらが常に更新をするというふうなことなものですから、長井市でつくる、社会福祉協議会でつくるって不効率でございますので、ともに連携をしながらつくってございまして、今後とも新たな情報が入れば更新をしていくというふうなことでございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひ更新をしながら、両方じゃなくて、やはり協議会と協力してぜひつくっていただきたいと思ひます。

やはり、例えば市長もおっしゃるように、まちなかはやっぱりどこを見てもそうなんですけども、市民の方が少しでも、ああ、こうして見かけたら手伝ってあげなきゃいけないなという気持ちになるような、やっぱりそれが必要だと思ひます。

この間、テレビで吉村知事が、バリアフリー推進員を2020年度までに山形県では2,000人ふやしたいと言っておりましたけども、長井市でバリアフリー推進員を持つてる方はいらっしやるのでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 高橋正典福祉あんしん課長。

○**高橋正典福祉あんしん課長** バリアフリー推進員につきましては、県の事業ということになります。山形県障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり条例をもとにして推進員の養成を行ってございます。

昨年度は長井市からは2事業所、計5名の方が推進員というふうなことで登録といたしますか、なってございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** これは持つてるだけでは、持つてるからどうってことではないんで

すが、やはりこういう勉強を少しでも多くの方がなされれば、本当、みんなの市民の一人一人の心が優しくなるというか、心のバリアフリーが本当にできるんじゃないかと思えますけど、市としては、この県の事業であるから、もっと長井市の市民にもっと受けてほしいと、事業所単位とおっしゃいましたよね、そういうのは市としては推薦しないんでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 課長ですか。

○**6番 鈴木富美子議員** 課長に。

○**渋谷佐輔議長** 高橋正典福祉あんしん課長。

○**高橋正典福祉あんしん課長** 市としても全面的にバックアップをしていきたいというふうに思っています。ことしは、今年度は4回の各ブロックごとにございますので、その時期に周知を図っていききたいというふうに思っております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひよろしくお願ひいたします。

市長は先ほどすばらしいことをおっしゃいましたので、私も感動して聞きまして、9日の日にせつかくの機会を逃したなど私たちも思っているところです。ちょっと急なご案内だったので、私たちもちょっと用事があって行けなかったということで、本当、せつかく参事官がいらして、お話を聞きたかったと思っております。やはりこれから障害者といっても、私たちも年をとって車椅子を使ったりしなきゃいけないので、やっぱりそういう障害に優しいまちづくり、本当、小さいまちだからこそできることだと思いますので、ぜひこちらのほうにも今後力を入れて、私たちも頑張っていきたいと思っておりますので、当局のほうもよろしくお願ひいたします。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** ここで暫時休憩いたします。再開は午後3時といたします。

午後 2時39分 休憩

午後 2時59分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

金子豊美議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位5番、議席番号3番、金子豊美議員。

（3番金子豊美議員登壇）

○**3番 金子豊美議員** きょう6月13日は大安吉日であります。この時間になりますと傍聴席のほうも大分少なくなりましたけれども、心強い応援の方はおりますので、一生懸命話をさせていただきたいと思っております。

例年になく寒暖の差が激しいきょうこのごろですが、うっとりしい梅雨の季節を迎えました。と同時に、花の長井、あやめの花が朝露に包まれ、美しさを増す季節を迎えようとしております。長井には水、緑、花を中心とした観光資源が多くあります。それを利活用するのは人です。私は長井の宝は人、そう日ごろ考えております。「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井～人にぎわい 心かよう 水のふるさと～」を実現するためにも、長井人の活躍に期待を抱きながら一般質問をさせていただきます。

地区公民館のコミュニティセンター化と予算について。

3月議会において、地区公民館のコミュニティセンター化について質問をさせていただきました。それを振り返ってみますと、初めにコミュニティセンター化の基本的な考え方について、